

研  
1225  
1973  
研

GANDARU  
MAWADE  
KARAI  
1225  
1973  
研

50th ANNIVERSARY おめでとうございます!!  
また一緒に大地をめぐりましょう!  
辻 美智子

谷本研 60才の個人展  
期待のまち

谷本研 60才の個人展  
期待のまち

谷本研



谷本研 60才の個人展  
期待のまち

谷本研  
60才の個人展

研

谷本研 60才の個人展  
期待のまち

谷本研 60才の個人展  
期待のまち



ラインズ・オブ・ライフ・ライフ  
～谷本研 自分史大年表～

谷本 研 展  
Tanimoto Ken Solo Exhibition

2022年12月25日[日]—2023年1月22日[日]  
13時から19時まで  
水・木および年末年始(2022年12月28日[水]～2023年1月5日[木])は休廊

Gallery P A R C  
GRAND MARBLE  
602-8242 京都市 上京区 自斐町 287 堀川新文化ビルディング2階  
075-334-5085 info@galleryparc.com

ラインズ・オブ・ライフ  
～谷本研 自分史大年表～



「当世物見遊山」  
(1999, 円山公園・お宿吉水 / 京都)  
撮影:山本香

Gallery PARC〔グランマール ギャラリー・パルク〕では、2022年12月25日から2023年1月22日まで、谷本研による展覧会「ライズ・オブ・ライフ～谷本研自分史大年表～」を開催いたします。

本展は、1973年に神戸に生まれ、1998年京都市立芸術大学大学院美術研究科造形構想修了。「デカダン秘宝館」(1996 / ギャラリーココ)や「当世物見遊山」(1999 / お宿吉水)などの企画活動をおこなうとともに、2002年からは大津市仰木地域をフィールドに「地蔵プロジェクト」を展開、2003年からは「新開地アートブックプロジェクト」、2007年より福祉施設「みずのき」のアートプロジェクトにも関わり、2014年からは美術家・中村裕太とのゆるやかなユニットとしてのプロジェクト『タイルとホコラとツーリズム』にも取り組む。また、デザインや漫画も手掛け、『プリコラージュ・アート・ナウ 日常の冒険者たち』(2005 / 国立民族学博物館)や「Dan Graham: Beyond」(2009 / MOCA) 図録などに漫画を執筆。はたまた観光ペナントの収集研究家としても知られ、著書に『Pennant Japan』(PARCO出版) などがある。大まかにいえば、アートとその周縁に関わりながら多様・多彩に活動する谷本研(たにもと・けん)によるものです。

で だから そして 結局 つまり では谷本研とは何者なのか？

「ライズ・オブ・ライフ～谷本研自分史大年表～」は、個展の形式を借りて、谷本自身がこの問いへの探求をおこなう機会となります。

数えて50歳の年、展覧会の初日であるクリスマスには満49歳の誕生日を迎える谷本研が、極めて個人的な出来事・トピックを年表形式によって取り上げ、たくさんの資料、巨大マンガとともに概観してみるものです。およそ50年分の「自分史」をギャラリーに展開させる本展は、いわば谷本による谷本自身へのリサーチとも呼べるものです。

もちろん、多くの鑑賞者にとってこの「谷本研史」を知ることには何の意味も持たないでしょう。しかし、「では『私』とは何者なのか？」という問いを自分へと向けた時に、私たちはそこに明確な答えを返せるでしょうか。「現在の自分」はこれまでの選択、必然・偶然による様々な紆余曲折を経た結果であるといえます。つまり、私たちはその問いへ答え(あるいは手がかり)を「これまで」に求めることになるのではないのでしょうか。

「これまで」から目をそらすことなく、その変遷に眼差しを向けてみることは少し恐ろしい行為でもあります。また、それでもなお明確な答えが得られるものではないかもしれませんが、しかし、「これまで」を点検・検証してみることは「現在」を検証することであるとともに、なによりも未知なる「これから」へと眼差しを向けることになるのではないのでしょうか。

まだまだ変化の最中にある2022年の暮れ、新しい2023年の始まりの時。恐れを抱きながらもそれらに目を向け、手を動かし、展覧会・作品として開示してみせる谷本の姿から、私たちも自分自身のこれまで・これからに目を向けて見てはいかがでしょうか。



展覧会名 ラインズ・オブ・ライフ ～谷本研自分史大年表～

出展作家 谷本 研

<https://galleryparc.com/pages/artist/THT.html>

会 期 2022年12月25日[日]～2023年1月22日[日] 13時から19時まで

水・木休廊 / 年末年始(2022年12月28日[水]～2023年1月5日[木])は特別休廊

会場・主催・お問い合わせ

ギャラリー・パルク

602-8242 京都府京都市上京区毘叟町 287 堀川新文化ビルディング 2 階

075-334-5085 / [info@galleryparc.com](mailto:info@galleryparc.com) / [www.galleryparc.com](http://www.galleryparc.com) MAP

[アクセス]○地下鉄烏丸線「丸太町」・「今出川」駅より徒歩約20分 ○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩約18分 ○京都市バス9番・50番(JR京都駅から約22分)・12番(阪急烏丸駅から約15分)・67番(阪急大宮駅から約12分)系統「堀川中立売」バス下車徒歩1分 ○駐輪場・駐車場 有 ※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

Artist Statement

自分史を編むというのはある面でもとても恐ろしい行為だと思います。自分が生きてきた年月を懐かしみながら書き起こしていく楽しさの反面、便宜的に書きつけたそれぞれのエピソードの行間に記せていない膨大な日々があり(50年間で約1万8千日!)、それらのほとんどを忘れて今生活していることに気付かされるからです。また自分史において、今日この瞬間まではどうあれ埋めることができるのに対して、原理的に明日以降は空白にするしかありません。そして「明日死なないとは限らない」という、いわゆる「縁起でもない、発想がチラリとよぎります」。

それでも今日までの歩みを俯瞰すれば、数々の偶然が結び合い、おかげさまで面白い人生が続いていると感じることができます。そして明日以降のことは何も分からないとしても、また予期せぬ偶然が繋がって真っ白だった空欄が埋まっていく期待に賭ける勇気がわいてきます。

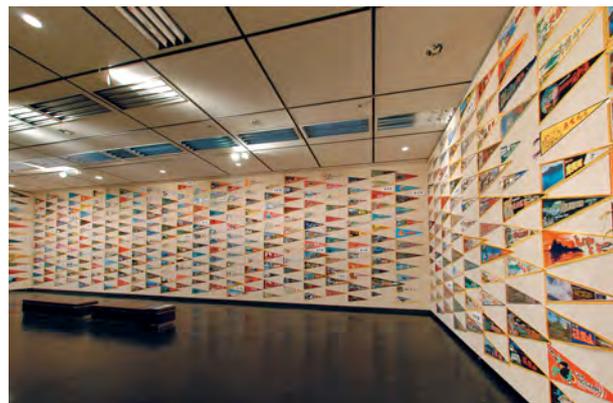
今回、個展と銘打って自分自身を素材にした「研」究をおこないます。極私的な年表をお見せするという野暮を、どうか数え年50の誕生日とクリスマスに免じてお許しください。

C.V

1973年 神戸生まれ。1998年 京都市立芸術大学大学院造形構想専攻修了。アートやその周縁に関わりながら企画活動をおこなう。1999年、京都の古旅館で開催した「当世物見遊山」展以来「観光」を徹底したモチーフとする。2002年から滋賀県仰木をフィールドに「地蔵プロジェクト」を開始し、近年は美術家の中村裕太とともに路傍のホコラに注目したプロジェクト「タイルとホコラとツーリズム」を展開する。漫画やデザインも手掛け、アメリカの現代美術家ダン・グレアムのライフヒストリーを漫画化した『まんがダン・グレアム物語』が展覧会図録に掲載される(2001、セラルヴェス現代美術館)。その他、『学校で地域を紡ぐ―「北白川こども風土記」から―』(小さ子社、2020)ブックデザイン、かつて流行した観光ペナントの収集研究家として著書『Pennant Japan』(PARCO出版、2004)などがある。

主な展覧会

- 1996 「デカダン秘宝館」(ギャラリーココ/京都)
- 1997 神戸アートビジュアル'97「art port」(神戸アートビレッジセンター)
- 1998 「THE SHOP HEXAGON」(長谷六角ビル/京都)
- 1998 「PANOPTICON」(神戸ファッション美術館オルビスホール)
- 1999 「当世物見遊山」(円山公園・お宿吉水/京都)
- 2000 「Satellicon(サテリコン)」(神戸ファッション美術館オルビスホール)
- 2000 「ペナント・ジャパン」(idギャラリー/京都)
- 2002 「ペナント・ジャパン in 比叡山」(ケーブル延暦寺駅ホール/滋賀)
- 2003 「新開地アートブック・プロジェクト」(神戸アートビレッジセンター)
- 2004 「ペナント・ジャパン in れきはく」(大津市歴史博物館)
- 2008 「ペナント・ジャパン in 嵯峨嵐山」(嵯峨芸術大学 附属博物館)
- 2008 「なんたんアートリンク」(亀岡市各所/京都)
- 2010 「丹波国分寺跡アートスケープ」(丹波国分寺跡周辺各所/京都)
- 2014 「タイルとホコラとツーリズム」(Gallery PARC)
- 2015 「タイルとホコラとツーリズム season2《こちら地蔵本準備室》」(Gallery PARC)
- 2016 「タイルとホコラとツーリズム season3《白川道中膝栗毛》」(Gallery PARC)
- 2016 「六甲ミーツ・アート 芸術散歩2016」(六甲ケーブル山上駅/神戸)
- 2017 「タイルとホコラとツーリズム season4《一路漫風!》」(東アジア文化都市2017京都「アジア回廊 現代美術展」)
- 2018 藤原隆男 京都市立芸術大学退任記念展「ほしをみるひと」(ギャラリー@KCUA/京都)
- 2018 「タイルとホコラとツーリズム season5《山へ、川へ。》」(Gallery PARC)
- 2019 「タイルとホコラとツーリズム season6《もうひとつの広島》」(広島市現代美術館)
- 2019 「タイルとホコラとツーリズム season7《ムイカーヌシーのクイコイ、ウンガミ様》」(旧塩屋小学校/沖縄)
- 2021 「タイルとホコラとツーリズム season8《七条河原じゃり風流》」(崇仁地区/京都)
- 2021 「タイルとホコラとツーリズム season9《ただいま!玉手箱》」(Gallery PARC [m@p]プロジェクトとして)
- 2021 「やんばるアートフェスティバル2021-2022」(大宜味村立旧塩屋小学校/沖縄)
- 2022 「大月コンテンツアート2022」(大月町立旧小才角小学校/高知)
- 2022 「タイルとホコラとツーリズム season10《マンマンダラダラマンダラ》」(成安造形大学)



「ペナント・ジャパン in れきはく」  
(2004, 大津市歴史博物館 / 滋賀)



「六甲ミーツ・アート 芸術散歩2016」  
(2016, 六甲ケーブル山上駅 / 神戸)  
撮影: 妻生田良吾



漫画「まんがダン・グレアム物語」  
原作: 野々村文宏  
2001, 2003, 2009



ブックデザイン「学校で地域を紡ぐ―「北白川こども風土記」から―」  
(2020, 小さ子社)